

《第 61 号》*** 岩手医科大学の和漢古書 ***

本学の蔵書には、雑誌や図書の他に和漢古書があることをご存知でしょうか。120 周年記念事業に向け重要な蔵書として『巖手醫學文庫』と名付けられたこれらの資料は、館長室に別置しているため目にする機会は少ないと思います。今回は、その和漢古書についてご紹介します。

◆和漢古書とは

和漢古書とは、和古書と漢籍を合わせた名称です。和古書は 1868 年(明治元)以前に日本で、漢籍は 1912 年(大正元)以前に主に中国で出版されたものを指します。和漢古書は、写本と版本に大別されます。写本とは手書きで書き写されたもの、版本とは印刷によって作成されたものです。これらは袋綴じ(和綴じ)で製本されたものが一般的ですが、中には巻き物になっている卷子本、蛇腹のように折られている折本などがあり、その形態はさまざまです。また、袋綴じであれば冊、卷子本であれば軸、折本であれば帖といったように、形態によって数え方が異なるのも特徴の一つです。

◆書誌を見比べる

本学に所蔵されている『病學通論』について見ていきます。下記は 2 つの書誌データを一部抜粋したものです。

①

VOL: 卷之1-卷之3
TR: 病學通論 全12卷(存3卷)/ 緒方洪庵譯述 ピョウガク ツウロン
PUB: [盛岡]: 池田政之, 安政4 [1857]
PHYS: 3冊; 23cm

②

VOL: 卷之1-卷之3
TR: 病學通論 全12卷(存3卷)/ 緒方公裁譯述 ピョウガク ツウロン
PUB: 大阪: 河内屋卯助, 嘉永2 [1849]
PHYS: 3冊; 23cm

これらは同じタイトルであり、著者も同一人物ですが、著者名の表記の仕方が異なっています。出版地・出版者は、①が盛岡の池田政之、②は大阪の河内屋卯助となっています。また、出版年も異なっていることが分かります。タイトルの横に「全 12 卷(存 3 卷)」と記載されているのは、全 12 卷あるうち、本学で所蔵しているのは 3 巻のみという意味になります。ちなみに、この『病學通論』は全 12 巻の刊行予定でしたが、実際には 3 巻までしか刊行されませんでした。

このように一見同じものであるように見えても、出版事項や内容も若干異なる場合があるので、注意が必要です。

◆特別展示

本学では、和漢古書を扱った特別展示を常設しています。直近では日本初の法医学書である『無冤録述』や、世界初の法医学書『洗冤集録』を展示しました。現代の法医学の概念とはまた違った世界に触れることができます。矢巾キャンパス分館で展示した後、本館でも公開されますので、是非ご覧ください。また、過去の特別展示の記録は、図書館のホームページでも公開されています。

*** 図書館トリビア ***

和漢古書に興味を持った！もっと色々なものを見てみたい！という方におすすめのサイトがあります。「国立公文書館デジタルアーカイブ」(<http://www.digital.archives.go.jp>)、「国立国会図書館デジタルコレクション」(<http://dl.ndl.go.jp>)です。こちらのサイトでは、それぞれの館が所蔵している貴重書等を閲覧することができます。和漢古書だけではなく、絵図や絵巻物も見ることができるので、眺めているだけでも楽しめます。本館では「国立国会図書館デジタル化資料送信サービス」も利用可能なので、是非ご活用ください。

メールマガジンに関するご意見・ご質問は、図書館 toshosho@j.iwate-med.ac.jp まで。

<編集・発行> 岩手医科大学附属図書館